

社外取締役からのメッセージ

「行動する社外取締役」として 社員も気づかない個性に光を当て 成長の促進につなげていきます

吉田 豊

石川島播磨重工業(現・IHI)では、大規模都市開発、航空宇宙部門の買収、南米からの事業撤退など大規模プロジェクトを手がける。東洋建設社外取締役としての在任年数は3年。ものづくり企業における豊富な経験が大いに活かしている。



かつて勤めていたIHIでは、主に財務、都市開発、経営企画の部門に携わりました。都市開発では東京・豊洲の大規模再開発を担当し、また、4年間、グループ会社の社長も務めました。

社外取締役として東洋建設の経営にかかわるようになり印象的だったのは、大変穏やかで誠実であるという社風です。その印象は4年目となる現在も変わりません。ただ逆におとなしく保守的な面もあり、そこに物足りなさを感じることも正直あります。

だから、というわけでもありませんが、取締役会では、もう一人の社外取締役とともに積極的に問題提起を行い、侃侃諤々の議論を引き出しています。どこの日本企業にもありがちですが、日頃から顔を合わせている執行役員だけでは、議論が遠慮がちになることがあるため、社外取締役として意識的に発言するように心がけています。取締役会の議論を活性化させることも、社外の視点を持つ私たちの重要な役割だと認識しています。

また、最近はコロナ禍のためなかなか行けませんが、現場にも足を運び、社員たちの声を直接聞くようにしています。「経営者パトロール」という安全点検活動で全国の現場を回りますし、フィリピンの現地法人も2回訪れています。私たちは「発言」するだ



経営者パトロールでは全国の現場を訪れる(中央)

けでなく、「行動」する社外取締役でもありたいと心がけています。

今年2年目を迎えた中期経営計画「Being a resilient company」では、基本戦略の第一に「人財への投資」を掲げています。この人財の育成については、早急に取り組まなければならない課題であると私自身も認識しています。次世代のリーダーを育成していくために、世代ごとの「選抜研修」など新制度の導入も必要ではないでしょうか。

また、海外事業においても、フィリピンでの経験を活かし、新たな国や地域で展開を目指してほしいです。なぜなら、海外事業の拡大は、人財育成においても大きな効果が得られるからです。私自身7年ほど海外勤務を経験し、感じたことですが、海外駐在では一人で何役も担わなければならない、様々な困難に直面します。それがまた、人間を大きく成長させるのです。

今後東洋建設が持続的な成長を果たしていくためには、事業を通じた社会課題への取り組みも欠かせない戦略です。最近、取締役会でもSDGsやESGを意識した発言が目立つようになってきました。中期経営計画の実践に向けて、東洋建設の中で新しい変化が起こっていると実感しています。

私の人生において、40年あまり勤めたIHIは確かに大きな存在ですが、現在の私にとって「我が社」といえば、もはや東洋建設のことであり、それほど愛着を感じています。そんな私だからこそ、社員たちも気づけていないような東洋建設の素晴らしい個性をたくさん見出していると自負しています。今後も社外取締役という視点から、それらに光を当て顕在化させることが、社員の成長を促すと確信しています。